『報徳のおしえ』とともに

全国報徳サミット筑西市大会

二宮尊徳7代目子孫　中桐万里子氏講演より（その6）

【最終話】前回は広報とよころ10月号に掲載

様々な徳に出会い、徳を受け、その受けた徳に報いていく、恩返しをしていく。それこそがまさに報徳と呼ばれる行動哲学ということになるわけです。

ただ、次のように言う人もいました。

「報徳、いいかもしれない。恩返しも大事かもしれない。だけど、恩返しをしないで受けるだけで終わったら楽なのに！助けてもらうだけで終われたら楽なのに！なんで受けたら返さなければならないのだろう」とおっしゃる方がいるのですが、実はこれにも秘密があったりします。

「誰かの役に立ち、誰かの根っこになり、誰かに栄養を与えていく。それはすり減ることではなく、まさに自分自身をも豊かにする。自分自身の少なくとも心は、非常に喜ぶことではないだろうか。それはすり減りではなくて、まさに生産。私たちは喜びや幸せを譲り合ったり、奪い合ったりする必要はない」と金次郎は繰り返します。

「なぜなら幸せや喜びは、私たちが食い尽くすだけではなく、動き出し働くことで、増やすことができる。増産、生産することができるものだからだ。私たちの働き、あるいは様々な人たちのつながりによる行動、それは、すり減るのではない。生産、この世に立派で大きな花を咲かせる営みだ」というわけです。

金次郎のこの報徳の思想は「恩返し」ならぬ「おんくり」である。というふうにおっしゃった方もいます。

『おん・おくり』と読まれがちですが、日本の古い辞書には「おんくり」と記載されています。

先輩からのものを後輩へ、過去からのものを未来へ、私たちが受けてきた親からの恩は子どもたちへ、そうやって未来へと「かえしていく」。

そのようなことで、まさに私たちがこの社会を、あるいは未来を作っていくものではないかと。

受けた徳に報いようと、そして贈ろうと、未来へと向かおうと動き出す。まさにこの大会のテーマでもあります『心豊かでたくましく生きる、ひとづくりまちづくり』。

それは金次郎自身が大いに願い、そして自らの人生をかけた、その姿でもあるのではないかと思います。

先ほど双越先生から「創造力というところに、金次郎の真骨頂がある」というメッセージをいただきましたが、まさに金次郎は生み出すこと、創造すること、そして一人一人が舞台に立ち、踊りだすこと、そのことを心から願っていました。

ここにおられる筑西市（下館）の皆様には、それぞれのご家庭が華やかで力強く、様々な実りを生み出していかれますように、心からご祈念を申し上げております。

今回このような機会をいただき、お話を聞いていただきましたこと、そして、皆さまの大事なお時間を頂戴したことに改めて感謝を申し上げ、私の話を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

《おわり》

中桐万里子氏 講演

たくさんのサミット出席者からは、中桐万里子氏に「私たちが今こうして在るのは、二宮尊徳先生のおかげです。ありがとうございました。」という言葉が、大勢の方から聞かれました。

自分たちの祖先と尊徳の苦労とその偉業に思いを馳せ、感謝をしていました。

筑西市長から、次期全国報徳サミット開催地・掛川市長へ、二宮金次郎のブロンズ像が引き継がれました！

天明・天保の大飢饉と下館藩　そして二宮尊徳

中桐氏の講演の背景となる歴史の事実として次のようなことがありました。

天保の大飢饉（1832～1837年）は、天明の飢饉（1783～1787年）を上回る大災害でした。

下館藩（現在の筑西市）では、これら二つの大飢饉の後、領内の人口が半減するほどの惨状でした。五行・小貝の両河川の氾濫をはじめ、打ち続く凶作に下館の農民は極度の困難に陥りました。藩主の治世能力は決定的で、借財もかさみ、藩の財政は破局に直面していました。

しかし他の藩を見ると、日本全国を襲った飢饉の中で、衣食に困らず余裕を見せていた藩もありました。その一つに隣の藩の桜町（栃木県二宮町）では、一人の餓死者も出さずに、大勢の領民を救っていました。この時の指導者が二宮尊徳でした。下館藩でも尊徳の力を頼り、その指導を仰ぐために一年をかけて何度も尊徳を説得、ついにその指導を受けることができ、藩の財政は立ち直っていきました。

問合せ先　教育課社会教育係　☎（579）5801

町民文芸

茂岩俳句会

立冬や鏡の白髪増すばかり　長崎　あけみ
ハモニカの不協和音やそぞろ寒　堂前　真実
踏み入るをためらふ程の一位の実　牧野　ユキ
里からの宅配届く秋の味　甘粕　恵美子
しがみつく枯葉を風は容赦なく　松井　テル子
祖母の味塩煮かぼちゃの甘きこと　野田　のり子
落葉掻く風の気儘に踊らされ　中屋　吟月

豊寿文芸

冬の虹明日はいいことありそうな　海富　智恵
つゆけしや夫が生家の床柱　堀田　幸子
米の字の歳を迎えて日向ぼこ　青木　公範
重き梨まず半分の皮を剥く　前川　ひとみ
夫に届け落葉に文を書けたなら　上田　知子
七十五松ぼっくりに躓きて　垣内　順子
銀河線木の葉たむろの無人駅　福井　一浩
落ち葉掃き夕日ことんと落ちにけり　伊藤　泰山
真っ青な空を予告し白鳥来　徳田　則子
重陽のハルニレ通りパステル展　西本　牧童

我が家のアイドル

こんにちは♬
いつもニコニコ「あいら」です☆
いっぱい食べて遊んで♥げんきいっぱい！
くるくるヘアがチャームポイント♥
みなさん、よろしくね♥

東條（とうじょう）　愛來（あいら）ちゃん
親♥大輔・誌保／茂岩栄町
令和元年10月16日生まれ

こんにちは♪
食べるの大好き、高いところ大好きなおてんば娘「はづき」です♥好奇心旺盛でパワフルですが、少し恥ずかしがり屋なときも。こんな私ですが、みなさん、よろしくお願いします♥

古田（ふるた）　羽希（はづき）ちゃん
親♥貴大・祐衣／豊頃南町
令和元年10月19日生まれ